

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Yくまーず未来Sopra		
○保護者評価実施期間	2025年1月6日		2025年1月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2025年1月6日		2025年1月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月30日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	構造化や視覚支援を重点的に行うことで、お子さまにとって、分かりやすく主体的に取り組むことができる環境になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 活動に合わせた空間づくりや状況に合わせて臨機応変に部屋の使い分けを行うことで、限られた空間の中でも落ち着ける、集中できる環境となるよう配慮している。 絵カードやMyjarを活用し、視覚からも理解を促すことで主体的に取り組めるよう配慮している。 説明の際にも、言葉だけでなく動作や実物を示し、また細分化して伝えることを意識して行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧なコメントと職員間の情報共有を密に行うことで、お子さまの発達段階を適切に捉え、統一した支援をおこなっていく。 発達に関する研修に参加することで、職員の知識・技能を向上させていく。
2	お子さまの発達段階を分析して活動内容を検討・提供している。	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画を更に細かくし、達成するための目標を毎月決め周知している。また、それに沿って保育士が活動内容・支援内容を検討した後、療育を実施している。 同じ活動内容においても、お子さまの発達段階において個々に必要な教材を用意、または関りを変えて支援することで発達を促している。 偏りなく発達を促せるよう、活動内容も分類分けしてバランスよく取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い視点から療育の組み立てができるよう、様々な職員がそれぞれの視点から意見を出し合える環境を作る。
3	日頃から、お子さまの様子についての共有やお悩み・困りごとに寄り添った支援を行うことで、安心感をもって通所していただくことができている。	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時や定期面談以外にも、日常より保護者様とのコミュニケーションを大切にしておくことで話しやすい・相談しやすい環境を整えている。 対面や電話の他にも保護者メールにおいても相談援助や様子の共有を行っている。 提供記録においても、様子が伝わるよう工夫し記入、複数で確認をおこなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続していくことで、良好な関係を築きご家庭含めてサポートできるようにする。 保育参観や合同相談等の機会を設けることで、事業所での療育内容の周知やご家庭で役立つ支援方法を共有できるように検討していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域に開かれた事業所は達成できていない	<ul style="list-style-type: none"> 今年度開所ということもあり、事業所内の運営に重点をおいてしまっていた。 イベントも夏まつりの1回にとどまってしまった。 イベント開催にあたり、感染症対策・防犯対策等に不安があり実施が難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 同グループの協同開催などイベントの方法を検討できるような働きかけを行う。 地区長様や区長様と連携を図り、地域の行事に参加していただけるよう検討していく。
2	保護者同士やきょうだい児同士が交流できる機会の提供や勉強会の開催等はできていない。	<ul style="list-style-type: none"> 交流の場としては、夏まつりを開催したがその1度のみとなってしまう。また、会場の広さから二部制とした為限られた家庭数での交流となってしまった。 ペアレントトレーニング等保護者支援を専門とする職員が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士やきょうだい同士の交流の場を提供していく為に、内容を検討していく必要がある。場合によっては、同グループで検討し実施していくことも必要。 ペアレントトレーニング等の保護者支援を行えるよう、職員が研修や勉強会等を実施し力をつけていく必要がある。
3	職員の知識・技術の向上の為の研修の不足	<ul style="list-style-type: none"> 発達に関する施設外研修へは積極的に参加しているが、限られた職員になってしまっている。 施設外研修は出来ているが、施設内研修はあまりできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤非常勤に関係なく、多くの職員に学習の場を設けていくことで、施設としてマッチアップさせていく。 伝達研修や同グループと連携した研修を検討することで、より多くの職員が参加できるようにしていきたい。